

事業名：1 養殖漁業研究事業

細事業名：(1) サケマス養殖技術支援事業

期間：H28～R2 年度

予算額：844 千円（うち国庫 267 千円）

担当：養殖・漁場環境室（水本 泰）

目的：

鳥取県内で生産量が増加しているサケマス類養殖について、技術的な支援を行うことで、県内のサケマス類養殖のさらなる増産、発展を目指す。

成果の要約：

1 調査内容

(1) ニジマスの三倍体魚作出技術の導入

県内養殖場での三倍体魚作成を行う体制を整えるため、親魚となる四倍体魚、および二倍体偽雄魚の養成を行った。

(2) イワナの三倍体魚作出技術の導入

県内養殖場で三倍体魚作出技術導入に向けて、養殖現場で三倍体魚を作成する方法を試験的に実施した。

親魚は、養殖現場で養成された二倍体魚を用い、採卵、受精後、得られた受精卵に、異なる温度条件での加温処理（三倍体化处理）を施した。

2 結果の概要

(1) ニジマスの三倍体魚作出技術の導入

H29 年度に四倍体化处理を施して得られた四倍体魚について、親魚養成を継続し、採卵に向けた準備体制を整えた。

また H29 年度に偽雄化处理を施した二倍体偽雄魚は、精巣の発達を確認し、雄化が確認された。

(2) イワナの三倍体魚作出技術の導入

異なる加温条件で三倍体化处理を施して得られた受精卵について、卵管理を行ったが、いずれの条件においても、ふ化仔魚を得ることができなかった。

今年度の試験では、産卵期後半の親魚から採卵を行ったため、卵が過熟状態にあったことなども、ふ化仔魚が得られなかった要因であったと考えられた。

成果の活用：

・本試験により、県内養殖現場での三倍体魚作出に向けた体制が整えられつつあり、三倍体魚の需要増加に対応することも可能であると見込まれる。今後、養成した各親魚を用いた試験により、三倍体魚の作出精度が向上することが期待される。